長崎純心大学 人間文化研究論文叢書 1

新シリーズ

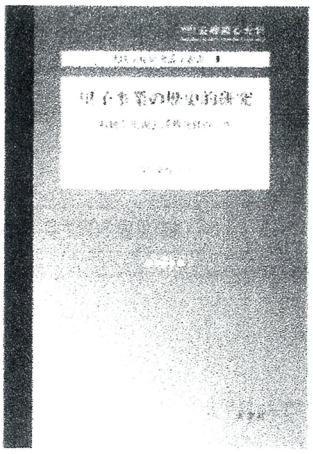
里子（さとご）事業の歴史的研究

福岡県里親会活動資料の分析

吉田菜穂子（なおこ） 社会福祉士・保育士・介護福祉士 著

B５判・並製・カバー装・170 頁　ISBN978-4-283-00957-8

定価（本体 3,500 円＋税）



少子・高齢社会で変容をとげる日本の“家族”の姿――その中で〈里子＝里親〉という関係は、今後見過ごせない重要なあり方になっている。

里親“当事者”としての豊富な経験をもとに、現代日本の〈里子＝里親〉活動を実証的に捉えた稀有な業績。

○官庁資料のみに頼りがちな従来の研究を一新。
○里親会などの〈当事者・経験者〉からの直接取材を駆使した独自の資料蒐集と豊富な統計図表。
○戦後日本の〈里子・里親事業〉の歴史と実態が明らかになり、初めて現代日本社会の本質が見えてくる。

いつかは母のような母親になりたい。私はずっとそう思って生きてきた。

里母になるために訪れた児童相談所は、公的機関とは思えないほど貧弱な建物の中にあった。書類棚と机を備えただけの簡素な部屋に通された。

「もう一度よく考えて、それでも登録するならば、必要書類をそろえて、ご夫婦で来所下さい。」

そう念を押して、職員は里親の申請用紙を手渡した。半年後、里親登録が認められた。

里父・里母になってから、世の中の言葉に敏感になっていった。

「里親は専門職ではないですからねえ。」

と、ある職員がつぶやいた何気ない一言が私を里親研究へと駆り立てた。

里親をどう評価すべきか。

非血縁児を育てるということはどういうことなのか。

里子の養育、養子縁組をどう位置づけるべきか。

この命題を解決するためには、丹念に里親のたどった道を検証するしかない。

里親は、実親でもなければ先生でもない。

唯一の親であることを望んで特別養子縁組をしても、

国家が決めた親にはなるが、生物学上の親にはなれない。

しかし、誰がなんと言おうと、

ただひたすら、子どもの幸せを願う親である。

ただひたすら、子どもを守る親である。

ただひたすら、子どもを慈しむ親である。

本研究を通して、筆者は、里親はどこまでも親であるとの確信を得た。

●「あとがき」より

販売

大空社出版

（発行　大空社）

主な内容（目次より）

長崎純心大学
「人間文化研究論文叢書」の発刊に思う
片岡千鶴子（長崎純心大学長）
刊行にあたって　津曲裕次（長崎純心大学大学院教授）

序章：里子事業の前史（戦前までの非血縁児の養育）

問題の所在
里親研究の見直し・里親における養子制度の再評価／子どもの人権クローズアップ／里親制度はなぜ進まなかったのか／登録里親・里子数の推移
福祉文化創造的視点・生活当事者としての視点
福岡県を中心にする里親会関係資料
用語の定義
言葉としての「里親」／児童福祉法における里親の検討／保護受託者制度／職親／特別養子制度

〈里親・里子事業の時期別分析〉

第1章：里親事業期　1948（昭和23）年～1968（昭和43）年
福岡県における里親制度発足から20年の軌跡

第2章：里子事業の草創期　1969（昭和44）年～1983（昭和58）年
里親委託と施設入所

第3章：里子事業の展開期　1984（昭和59）年～1997（平成9）年
非血縁児養育の困難性

第4章：里親・里子事業の再興期　1998（平成10）年以降
2002年里親制度改革がもたらした里親会活動
里親養育の実際
新しい流れと「ファミリーホーム」
小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の養育事例

結論
里親事業の最盛期と里子事業の黎明／里親家庭の継承性／里子事由の変化と受託率の再検討／時期区分の再検討

里親会年表　文献・資料

■図表50数点収載

刊行にあたって（津曲裕次）より

（…）吉田さんは、これらの分析を通して、次の様な注目すべき結果を導き出している。

①児童相談所の伝達組織として発足した里親会が1960年代から里親による自助組織（会費制、会報、サロン、ピアカウンセリング、レクリエーション等）に発展してきていること。

②戦争直後は里親家庭には地域差があり、里親も、僧侶、保護司などの名望家中心であったが、現在は、一般市民が多く、あまり地域差が見られなくなったことを明らかにし、その実態を調べて、現在の里親には、里親家庭の実子、里子経験者がかなりの割合を占めており、その継承性がみられること。

③かっては、実親が存在しない里子が大部分であったが、現在の里親は、被虐待児、障害児、非行児など従来とは違った実親が存在する里子を受け入れている。そのため、「専門里親」、5～6人の里子を受け入れる「ファミリーホーム」など専門性や事業としての運営が必要な実態が増加していること。

④このような結果から、吉田さんは、里親制度そのものが大きな変わり目にあり、里親研究を、「非血縁児養育問題」として捉える視点をも提唱した。

【キーワード】
里子・里親・実親・非血縁・養子縁組・家族・子どもの権利
児童相談・児童虐待・障害児・制度・福祉

著者　吉田菜穂子（よしだ・なおこ）　1958年生まれ。社会福祉士・保育士・介護福祉士。吉備国際大学大学院修士課程修了（社会福祉学）後、2011年、長崎純心大学大学院博士後期課程修了、博士（学術・福祉）。里親登録（1998年）、専門里親登録（2009年）。2010年、小規模住居児童養育事業（吉田ホーム）開設。

長崎純心大学 人間文化研究論文叢書1
里子事業の歴史的研究
福岡県里親会活動資料の分析
吉田菜穂子 著
（2011年7月刊）
B5判・並製・カバー装・170頁
ISBN978-4-283-00957-8
定価（本体3,500円＋税）

社会福祉・児童福祉・教育・医療
家族社会学・民法・人権・地域行政

研究者・関係者
関連図書館
必備 必読

販売
大空社出版
（発行　大空社）
〒114-0032 東京都北区中十条4-3-2
TEL：03-5963-4451
FAX：03-5963-4461
E-mail: eigyo@ozorasha.co.jp

＊お取扱い